

佳作

がんばったらのれたよ

茨城県 下妻市立大宝小学校一年 鈴木 健太

「けんた、なつやすみちゅうじてんしゃにのれるようになるんだ。」

とおとうさんがほくにいいました。

ぼくがまだほいくえんにいってるときに、じてんしゃのほじょりんがこわれてから、ぼくはぜんぜんじてんしゃにのるれんじゅうをしませんでした。ぼくだってみんなみたいにつまくのりたいたいとおもっていたけど、つまくのれるかどうかしんぱいで、なかなかれんじゅうするきになりませんでした。

七がつ三十一にち、

「けんた、きょうはじてんしゃのれんじゅうだ。」

といいながら、おとうさんはじてんしゃをよういしてくれました。ぼくのじてんしゃはピカピカきれいになっていました。(おとうさんがそうじしてくれたんだ、よしこつなったらやるしかない)ぼくはそうおもったから、

「がんばるからおしえてよ。」

といいました。おとうさんは、

「よし、いまかられんじゅうだ。」

といいながらぼくをじてんしゃにのせました。

「うしろでしっかりおさえるからこいでみる。」

そういわれてぼくはこぎはじめたけど、ぶらぶらしてたおれそうになった。

「けんたよりちいさいおともだちだつてじょうず

こつているよ。」

ちかくでみていたおじいちゃんかぼくにいいました。そういわれてぼくはなんだかくやしくなりました。「おとうさん、ちゃんとおさえてよ。」

ぼくはこぎはじめました。またぶらぶらしてたおれそうになると、

「まっすぐまえをむいて。」

とおとうさんにいわれました。ぼくはおとうさんがちゃんとおさえているかどうかつらばかりきにしていました。

「ほら、こいでいこい。」

おとうさんにそういわれてこいでみたけど、やっぱり

りぶらぶらしてたおれそうになりました。なかなかうまくいなくて、ぼくはだんだんれんじゅうがいやになってしまいました。(でもともだちはみんなのってるしなあ)そうおもったらまたがんばるきになりました。

「おとうさん、もういつかいいくよ。こんどはひとりでのつてみるから。」

(よしこんどこそ)そうおもいながらこいでみた。

「けんたうまいぞ。」

おとうさんにそういわれて、

「やったあ、のれたぞ。」

といったらぼくはたおれてしまいました。でもすこしだけどじしんがつきました。それからもなんかいかたおれたりしたけど、なんとかひとりでのれるようになりました。(やったあ、ひとりでのれたぞ。ぼくだつてがんばればできるんだ)そうおもっていたらおとうさんが、

「けんたがんばったな、もうほじょなしでものれるよな。きょうはこどもかいのおたのしみかいがあるんだつて。」

といいました。

「じてんしゃでいきたい。」

とおとうさんにいったらじかんになるまでいっしょにれんじゅうしてくれました。

ゆうがたぼくはおとうさんとじてんしゃでおたのしみかいにいきました。とてもうれしかったです。おとうさんどうもありがとう。

